

BIBLE + MESSAGE

わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。(マタイ 16章 18節)

聖書のなかで、「教会」という言葉がはじめて出てくるのは、上記の箇所です。これは、イエス・キリストが弟子のペテロに向かって語られた言葉でした。ペテロはイエス様に対して、「あなたは、生ける神の御子キリストです」という信仰を告白しました。その告白を聞かれたイエス様は、「この岩の上にわたしの教会を建てます」と宣言されたのです。「この岩」とは、ペテロのことであり、彼と同じようにイエス様を信じる人々のことを指しています。そのような人々の上に、キリストの教会は建つのです。

教会というと、多くの方はヨーロッパの国々などで見られる立派な建物をイメージされるかもしれませんが、しかし、教会とは本来、イエス・キリストを信じる者たちの集まりをあらわす言葉なのです。日本語で「教会」と訳されているのは、ギリシャ語の「エクレシア」という言葉です。これはもともと「会衆」とか「呼び集められた者たち」といった意味があるのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前 10 時～ 10 時 45 分 【礼拝】日曜：午前 11 時～ 12 時半
【午後の集会】日曜：午後 3 時～ 4 時半 【聖書研究会】木曜：19 時半～ 21 時

聖書を読んだ日本人

(前号からの続きです)

1906年、倉敷紡績の社員寮で感染病が発生し、社員数名が亡くなりました。この責任を取って、孫三郎の父親は社長を辞任。代わって孫三郎が社長となります。

社長となった孫三郎がはじめて着手したのは、工員の労働環境の改善でした。当時は工事請負業者が労務者の管理を行う飯場制度が一般的でしたが、劣悪な環境であることが多く、なかば強制的に就労させられている者もいました。孫三郎はこれを廃止し、従業員の確保、食事の手当、日用品の販売などを、すべて会社で行うようにしました。また、不衛生だった集団寄宿舎を今日の社宅に近いものに変更。そこに医師を駐在させま

す。さらに託児所の設備も整えたそうです。そのほか、社員を勧誘するための映画を作ったり、幹部社員に大学や専門学校卒業生を採用するなど、孫三郎は時代を先駆け取り組みを進めたのです。

孫三郎が進めた改革が功を制し倉敷紡績は大きく成長していきます。さて、ここからが孫三郎の凄いところなのですが、彼は会社の利益のほとんどを孤児院の支援に充てていたのです。その金額は現在のお金で数百億円にも上ったそうです。当然、利益を優先する会社の役員や株主たちは、孫三郎のすることに猛反対しました。しかし彼は、「わしの眼は十年先が見える」と言って、反対の声を押し切ったそうです。



大原 孫三郎
(おおはら まごさぶろう)
1880年～1943年



倉敷市にある
大原美術館

孫三郎の取り組みは、まだまだ続きます。農業研究所の設立、社会問題研究所の設立、労働環境改善のための研究所の設立、倉敷中央病院の設立、中国水力電気会社(現、中国電力)の設立、中国合同銀行(現、中国銀行)の頭取就任、倉敷絹織(現、クラレ)の設立、大原美術館の開館、などです。彼の生涯の業績は多岐にわたります。しかし、その根底にあったのは「受けるより与えるほうが幸いである」との聖書の御言葉だったのではないのでしょうか。